

最終評価の目的と方法

1 最終評価の目的

「すこやか大阪21」の最終評価は、策定時及び中間評価時に設定された目標の達成状況や関連する取組の状況の評価するとともに、平成25年度以降の次期計画に反映させることを目的としている。

2 最終評価の方法

「すこやか大阪21」策定時および「後期計画」策定時に設定された11分野の目標（78項目、そのうち再掲の19項目を除く59項目）について、原則として、計画策定時、中間評価時に用いた調査と同様の調査方法を用いて、各項目の数値を得た。

今回の最終評価には次の調査結果を用いた。

- 23年度大阪市民の健康づくり・生活習慣等に関する調査

<http://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000172181.html>

20歳以上の市民から5,000人を無作為抽出し、郵送自記式アンケートを実施。

- すこやか大阪21健康づくりアンケート調査（中学生・高校生）

<http://www.city.osaka.lg.jp/kenko/page/0000172181.html>

中学については、大阪市立中学校全校（130校）に対して2年生1クラス分の調査用紙を配布し、自記式アンケートを実施。

高校については、大阪市立高等学校の中から4高校を抽出し、2年生全員に自記式アンケートを実施。

- 国民健康・栄養調査結果のうち、平成19～22年の大阪市における結果

これらの他に、人口動態統計、学校保健統計、高齢者実態調査などの統計や調査、大阪市における歯周疾患検診、国民健康保険特定健康診査、乳幼児健康診査（3歳児歯科健診）の実績なども活用した。

また、評価の方法は、国と同様に策定時の値と直近値を比較（有意差検定を実施）するとともに、分析上の課題や関連する調査・研究のデータの動向も踏まえ、目標に対する達成状況について評価を行った。中間評価時に設定された指標については、中間評価時の値と比較することとし、評価は次のとおり、AからEの5段階で行った。

- A：目標値に達した
- B：目標値に達していないが改善傾向にある
- C：変わらない
- D：悪化している
- E：評価困難